

科目区分：学校教育教員養成課程（受講生数 108 名），
授業科目：初等家庭（2 コマ × 4 回分（宇高担当部分））

教材実験の体験と教材研究を含む大人数の初等教科科目

家政教育講座・宇高順子

1. 授業の概観

(1) 授業の概要

本授業は、学校教育教員養成課程の2年次前期必修選択科目で、小学校教員免許のための認定科目である。内容は、食7回（宇高4回、岡本教員3回）、衣5回、住3回のオムニバス形式で行った。

本授業担当部分の<到達目標>は、以下のように設定した。

- (1) 現代日本の子どもの生活の実態と問題点を論述できる。
- (2) 小学校家庭科食物領域の授業の評価方法と授業の組み立て方を説明できる。
- (3) 良い授業、問題の授業とはどのようなものかを説明できる。
- (4) 小学校家庭科食物領域の実験教材の活用方法を5つ以上説明できる。

<スケジュール>は以下の通りであった。

第1回 良い授業の条件を考える

（偏食に関する授業例から考える。デールの経験の円錐を紹介し、事実から学ぶ重要性に気づかせる。）

第2回 小学校食領域に関する実験教材の意義と、次週実験教材および方法、教材研究課題の説明

第3回 13班教材実験・発表

（クラスを2分割し、2週で2教員が交替して授業）

実験テーマ：デンプンの消化、炊飯（吸水、加熱方法）、みそ汁（だし、みその加熱）、卵焼き、食品添加物検出（亜硝酸塩）、蛍光増白剤（布巾）、カロテン（ペーパークロマト）、搾油。

第4回 各班教材研究の講評

テーマは、第3回の各班実験に関連する単元で、単元の到達目標、授業の流れ、選択肢問題と解答作成（目標達成を確認するため）に関連する教材研究をA4 2枚にまとめるよう指示した。

2 年生前期で、授業づくりの経験のない学生が大半であるため、授業の流れは略案でよいこととした。

提出された課題にコメントを書いて印

刷し、授業で講評を行った。

(2) 授業の工夫

具体的な授業内容例を紹介し、良い授業、良くない授業の条件を考えさせた。

また小学校家庭科に、実験や史実紹介による科学的学び、生活問題解決学習、環境や文化、歴史と関連づけ総合的に考えさせる面白さがあることを伝えたいと考えた。

今年度は特に以下の点を工夫した。

- ・ 学生に考えさせ、意欲づける働きかけ

そのために、授業内容をより精選し、資料を充実させることにより、時間的ゆとりを増やすようにした。そして、学生への問いかけ、考えさせる時間、発表とそれに対するコメントを丁寧にするよう心がけた。

また実験授業は、自分の班の作業手順を詳細にイメージできるレベルで書いて提出する予習課題（紙媒体）を課した。

- ・ e-learning (Moodle) :

班及び個人レポート、授業評価アンケートを Moodle で行った。後に残るし、大人数の授業では特に管理しやすい。ただし、フィードバックを怠らないようにすることが授業者の課題である。

2. 授業内容の評価

Moodle で授業評価アンケートを行った。有効回収率は78%であった。結果を以下に示す。

回答者数 84 (数値は%)	大変良い	まあ良い	ふつう	不良	全然不良
知적おもしろさ	20	70	10	0	0
得るところ	52	45	2	0	0
意欲的に取組めたか	24	67	8	0	1
教員の説明	32	44	20	2	1
資料や実験教材	0	57	31	12	0
moodle 課題	25	27	33	14	0
書籍等で自学したか	5	27	27	36	5
授業の難易度	適切	もっと易しく	もっと高度に		
	75	16	1		

- ・授業の知的面白さは90%の学生が、得るところのある授業だったかについては97%の学生が、意欲的に取り組めたかについては91%の学生が、大変良いまたはまあ良いと回答しており、好評といえる。
- ・教員の説明は、普通以上の評価が96%で、ほぼ良好と考えるが、「実験授業時は声が聞き取れにくい時があった。」という意見が見られた。マイクを用意する等工夫したい。
- ・資料や実験教材は、普通以上の評価が88%であった。自由記述には、「資料が多いので、授業で使わなかった参考資料の使い方等の説明が欲しかった。」等の意見が見られた。また、実験教材の所要時間が班により異なっていたため、「同じくらいの実験時間になるよう計画してほしい。」という意見が見られた。改善を図りたい。
- ・Moodleによる課題提出については、普通以上の評価が85%であった。Moodleに慣れていない学生も居る様子であった。
- ・書籍等による自学については、普通以上の評価が59%に留まり、あまり又は全然していない学生が41%見られた。班単位の教材研究では、関わらない学生が出やすいためと思われる。個人のレポート課題で工夫する等したい。
- ・授業の難易度は、適切が75%、もっと易しくしてほしいが16%見られた。授業内容はわかりやすかったという自由記述が多かったが、授業作りや教材研究のしかたについて、詳細に聞きたかったという意見が見られた。短期間ではむずかしいが、班課題の進め方等の工夫をしたい。

以下に、今後の授業に参考にしたい自由記述を紹介する。

- ・家庭科の授業内容という食のバランスとかありきたりなことしか浮かばなかったけれど、この授業を受けて壊血病の話を引用したり、もっと自由に楽しく作っていいのだということがわかった。子どもたちが自分の生活に還元できるようなおもしろい家庭科の授業を私も作りたいと思う。
- ・2つの授業例を比較して、よい授業とは何かを考える授業で、とてもとても私は衝撃を受け感動した。私も将来どのような教科に対してもこのような授業を作ることがで

- きるようになりたいと思った。
- ・良い授業について考えた講義では、それまでディスカッションがある授業が良いと思っていたが、ディスカッションがない授業でも内容の工夫次第でおもしろい、良い授業になるということを知ることができた。このように、自分の予想と違うことを学べたことが面白かった。
- ・知らない知識を得ることができたのはとても知的好奇心をくすぐられた。
- ・普通なら経験できないような実験ができてよかった。子供たちに教えていくうえで、このような体験や感動こそが大切になってくると思う。教員になったとき、どのように子供たちに納得してもらおうか、興味をもってもらうか、この授業を通して考えることができた。
- ・知らない民族の話、クイズ形式での動物の食物の摂取の仕方など、今まで経験したことがない授業内容だったので面白かった。
- ・実験がやはり一番印象に残った。
- ・自分が知らなかった知識(カロテンや搾油など)が実際に実験を通して確認できたところが面白かった。
- ・教材研究課題で、授業の展開や進め方が参考になった。
- ・壊血病や野菜炒め(カロテン)の話など、実際に調べてみたいと思うような話題がいくつもあった。今まで家庭科の授業は、料理実習位しか印象に残っていなかったが、こういう話題を私の小学校時代にも授業で取り入れてくれたら、もっと楽しく学べたと思う。
- ・授業は非常にわかりやすく興味深い内容だった。自分が小学校の先生になった時どのような流れで授業を行うかなど考えるなど非常に将来に役立ちそうな授業だった。また栄養のところでは、先生の説明後に問題の載っているプリントなどをやったりしてより理解を深めることができ、すごくやっていて授業に参加している気持ちになれた。
- ・児童への指導の仕方をもっと具体的に(実践的な教授法を)教わりたかった。
- ・もっと授業をする側(教員)の視点で、どのように勉強すればいいのかを教えてもらいたかった。

学生に励まされる。さらに精進したい。